

活動再開しています。皆様の協賛をお願いします。

近況報告をさせていただきます。

活動自粛の中でしたが昨年は、ベトナムでは枯葉剤爆弾被害者貧困家庭への『仁愛の家』寄贈及び少数民族出身学生生支奨奨学金活動を、キューバでは米国によって巧妙かつ周到に仕掛けられた経済制裁で困窮するキューバ国民への緊急支援活動、などおこなってきました。

今年度は、その活動を軌道に乗せたく思っております。

●近況

IFCCの活動基盤である共同出資旅行社アイエフシーは現在何とか維持し、今後も“爪痕”を残したく、諸計画をすすめているところです。

2019年のベネズエラ危機から「フェイクに抗う中南米情報」E-mail発信を開始してきましたが、2022年度(2022年6月～2023年5月)は「フェイクに抗うIFCC情報」として、10回の発信をしてきました。特に、「平和のために戦争と軍拡をすすめる」動向と風潮に抗することの重要性を肝に銘じながら。

また、2022年秋から「日越友好植林事業」をJVPP主催で準備・着手してきました。

●キューバ&ラテンアメリカ連帯

日本キューバ連帯委員会(CUBAPON)では、2022年度、会報を3回発行し、キューバへの緊急支援と連帯を行ってきました。(CUBAPON会報をご覧ください)

キューバ連帯の一環として製作したDVD映像「日本人キューバ移民の記録」は一般のイベント「ドキュメンタリー映画祭」で東京、大阪で上映されてきました。

2023年の今年は日本人のキューバ移民125年となり、駐日キューバ大使館の企画に協力していくことにしています。

現在、延期が繰り返されてきた友好訪問団の実施に向け鋭意努力中ですが、渡航妨害ともいえるフライト制限が厳しさを増し、渡航ルートで苦慮しています。同時に、キューバ国内の経済状態も不便さが増しておりプログラムを組むのに支障が生じています。しかし、今秋にはCUBAPONの友好訪問団を是非とも実現したく思っています。キューバの息吹に飢えている皆様のご参加を呼びかけます。詳細はCUBAPON会報をご覧ください。

●ベトナムでの友好活動

NPO日本ベトナム平和友好連絡会議(JVPP)を通じた友好活動の柱は「枯葉剤爆弾被害者貧困家庭への支援」と「少

数民族出身学生への奨学金の活動」でしたが、今年から「日越友好植林事業」が加わることになりました。

枯葉剤爆弾被害者貧困家庭への支援は、ベトナム北部ハザン省で2023年1月、枯葉剤被害者家庭調査・慰問2軒、貧困家庭への『仁愛の家』寄贈1軒が実施されてきましたが、2023年度も『仁愛の家』寄贈が継続される予定です。

同時に、埼玉JVPPはクアンナムで実施してきた50軒の『仁愛の家』寄贈を経て今、後の支援を計画されています。

少数民族学生奨学金支援は2023年1月、ハザン省ヴィスエン郡少数民族学生寄宿学校で50人の学生に、2月にラムドン省少数民族学生寄宿高校で10人の学生に、奨学金が贈与されましたが、2023年度はハザン省ヴィスエン郡で公立中学校の少数民族学生への奨学金支援も追加されることになりました。

2022ベトナムアンサンブルチャリティコンサートは3年ぶりにIFCC企画、JVPP共催で実施されました。今年は、日越外交関係樹立50周年の年ということもあり、規模を縮小してでも開催していくべく準備されています。

日越友好植林事業がハザン省で開始され、2023年1月、開工式に合わせて植林ボランティアが参加してきました。これは日越外交関係樹立50周年記念と「ベトナムでの10億本植林プロジェクト」に呼応した取り組みとして進められ、三期まで予定されています。

2023年度も第二期の植林ボランティアが呼掛けられます。(鎌田)



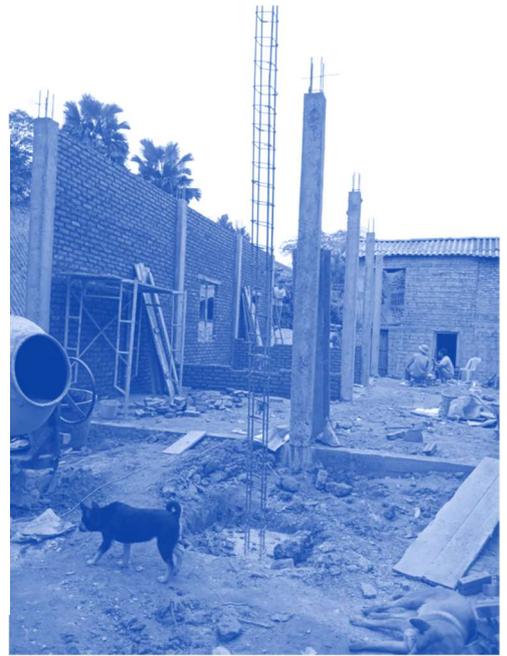
ボランティアも参加して植林事業(2023/1/10)

2022 ベトナムアンサンブルチャリティーコンサート御礼

「仁愛の家」寄贈で1,000,515円を届ける



右：ハザン省バッククアン郡ヴェクアン村 Hoang Anh Cau さんの「仁愛の家」建築模様
左：寄贈の模様(2023/1/11)



御礼状

この度は、ベトナム戦争枯葉剤被害者支援のための「2022 ベトナムアンサンブルチャリティーコンサート」(企画：IFCC 国際友好文化センター、共同企画：JVFP 日本ベトナム平和友好連絡会議)に御協力頂きありがとうございました。

アンサンブルは、10月7日に来日し、9箇所で開催したチャリティーコンサート、3箇所で開催した文化交流演奏会(福岡・朝鮮初等学校、東広島・HVPF交流会、埼玉・門川町での民族楽器紹介・演奏)を行い10月27日に帰国いたしました。来場者は約2,300人、チケット購入協賛者は約2,700人ほどになりました。

コロナ禍で3年ぶりの開催となり、幾つかの懸念もクリアし公演回数は少ないでしたが、各地で感動を呼ぶ公演となり夫々の公演は予想を超える参加者で主催者や公演実行委員会の方々のご尽力の賜物と感謝する次第です。

今回は回数25年目(2020年、2021年は中止)となり、累積で394会場、来場者数約117,300人を数えることになりました。

今回はまた京都・朝鮮歌舞団のご協力を得て初めての京都公演が開催できるなど、今後へとつながる活動もできました。

コロナ禍の終息しない中で諸々の制約もありましたが、「わたしの体の中では戦争が終わっていない」という枯葉剤爆弾被害者の叫びに応えた活動の爪痕を残すことができました。

なお、2023年1月8日からベトナム・ハザン省に赴き枯葉剤被害者貧困家庭への「仁愛の家」寄贈をしてきましたので、その報告とともにコンサートの収支報告をご案内申し上げます。

御礼状の遅れを重ねてお詫び申し上げます。

2023年3月

IFCC国際友好文化センター
理事長 鎌田 篤則

22 コンサート収支

《支出》	
招聘経費	1,514,082
国際航空運賃、出国TAX、査証書類及査証代等 11人	
移動費	1,669,190
バス代、移動費 21日間	
滞在費	1,908,971
宿泊費、食費、他	
事務局費	710,579
人件費、添乗費、出張旅費、通信・送料、事務雑費	
宣伝物作製費	183,218
プログラムパンフ等	
保険料	0
頒布物資仕入	235,540
公演製作費(謝礼金)	1,000,000
アンサンブル団員、通訳、製作経費	
支援事業関連経費	251,030
22進捗管理費251,030円、次期準備費0円	
支援金	0
22支援活動(仁愛の家寄贈)、慰問費	
特別支出(著作権)	0
支出合計額	7,472,610
《収入》	
経理金	-445,093
22収支より	
公演謝礼金(9公演)	5,041,604
協賛広告費	330,000
物資頒布	505,900
雑収入	0
事業復活支援金より889678	
寄付金	793,526
会場カンパ、支援金(東松山150,000 宮崎様100,000、川路様50,000)	
自己資金	651,030
IFCCより 製作費400,000+進捗費用251,030	
借入金(次期繰越)	595,643
IFCCより	
収入合計額	7,472,610

- コンサート収支は赤字が生じましたが、活動再開と枯葉剤被害者支援キャンペーンの役割を果たすことができました。
- 支援活動は「連合・愛のカンパ」から500,000円の助成、協賛カンパ440,000円、他JVFP自己資金で実施されました。

“わたしの体の中では戦争が終わっていない”

2023 秋ベトナムアンサンブルチャリティーコンサートを準備中です。

今年は、枯葉剤被害者支援と文化交流の二つの目的に加え、日越外交関係樹立 50 周年事業として企画されています。

＜銃口を向けあい、核と軍拡によって「平和」を得ようとしている＞欺瞞に抗うため、枯葉剤被害者の叫びを刻み続けます。